



# 報 告 書

平成30年度総務消防常任委員会管外行政調査及び研修を平成30年5月15日(火)から17日(木)まで実施いたしましたので、その概要を次のとおり報告いたします。

平成30年6月19日

名取市議会 議長 丹野 政喜 様

総務消防常任委員会

委員長 相澤 祐司

## 記

- 1 期 日 平成30年5月15日(火)～17日(木)
- 2 視 察 先 (1)大阪府茨木市  
(2)滋賀県草津市  
(3)大阪府吹田市
- 3 参 加 者 (1)委 員 委 員 長 相澤 祐司 副委員長 大沼 宗彦  
委 員 菅原 和子 委 員 吉田 良  
委 員 荒川 洋平 委 員 小野 泰弘  
(2)執行部 総務部男女平等・市民 佐藤 洋  
参画推進室 推進係長  
(3)事務局 主 査 丹野 宏俊
- 4 行 程 別紙のとおり
- 5 調査事項 別紙のとおり

# 平成30年度 総務消防常任委員会管外行政調査及び研修行程表

	行程	宿泊	視察自治体	調査事項
5月15日 (火)	<p>【集合 午前9時 仙台空港2階 JALカウンター前】</p> <p>JAL2202便 ⇒⇒⇒ 仙台空港 9:45                      徒歩 ⇒⇒⇒ 伊丹空港 11:05                      リムジンバス ⇒⇒⇒ 新大阪 12:10                      JR京都線 ⇒⇒⇒ 茨木 16:22</p> <p>茨木市役所                      茨木市議会視察                      14:00～16:00</p> <p>JR京都線 ⇒⇒⇒ 京都 16:44</p>	<p>ホテル近鉄京都駅                      〒600-8215                      京都府京都市下京区東塩小路釜殿町1-9                      (電話：075-692-2111)</p>	<p>大阪府茨木市                      (担当：しのつか麻)</p> <p>人口 281,712人 (H30.2.28)                      面積 76.49 km<sup>2</sup>                      住所 茨木市駅前三丁目8番13号                      電話 072-620-1671</p>	<p>調査事項                      女性防災リーダー育成事業について</p>
5月16日 (水)	<p>JR琵琶湖線 ⇒⇒⇒ 京都 11:07</p> <p>送迎</p> <p>現地視察                      アーバンデザインセンターウヰワこくくさつ</p> <p>徒歩 ⇒⇒⇒ 草津 11:30                      徒歩 ⇒⇒⇒ 南草津 15:45</p> <p>草津市役所                      草津市議会視察                      13:00～15:00</p> <p>JR琵琶湖線 ⇒⇒⇒ 京都 16:06</p>		<p>滋賀県草津市                      (担当：やまもと麻)</p> <p>人口 132,920人 (H30.2.28)                      面積 67.82 km<sup>2</sup>                      住所 草津市草津三丁目13番30号                      電話 077-561-2413</p>	<p>草津未来研究所について</p>
5月17日 (木)	<p>JR京都線 ⇒⇒⇒ 京都 9:00</p> <p>吹田市役所                      吹田市議会視察                      10:00～12:00</p> <p>徒歩 ⇒⇒⇒ 高槻 9:13                      徒歩 ⇒⇒⇒ 吹田 9:33</p> <p>JR京都線 ⇒⇒⇒ 吹田 13:33</p> <p>リムジンバス ⇒⇒⇒ 伊丹空港 14:25                      JAL2209便 ⇒⇒⇒ 仙台空港 15:25</p> <p>徒歩 ⇒⇒⇒ 吹田 9:33                      JR京都線 ⇒⇒⇒ 新大阪 13:38                      徒歩 ⇒⇒⇒ 新大阪 14:00</p>		<p>大阪府吹田市                      (担当：よこやま麻)</p> <p>人口 370,264人 (H30.2.28)                      面積 36.09 km<sup>2</sup>                      住所 吹田市泉町1丁目3番40号                      電話 06-6384-2674</p>	<p>男女共同参画センターについて</p>
議員等連絡先	<p>①委員長 相澤 祐司 (382-4233) ⑤委員 荒川 洋平 (090-2980-4044)                      ②副委員長 大沼 宗彦 (382-2178) ⑥委員 小野 泰弘 (382-1075)                      ③委員 菅原 和子 (738-9709) ④委員 吉田 良 (090-3368-1771)</p>	<p>執行部随行動行                      事務局随行動行</p>	<p>男女共同・市民参画推進室 推進係長 佐藤 洋                      議会事務局 主査 丹野 宏俊                      宮城県名取市議会事務局                      TEL:022-384-2109 (直通)、FAX:022-384-9670                      E-mail:gikai@city.natori.miyagi.jp</p>	

## 総務消防常任委員会管外行政調査項目

### ○大阪府茨木市 [5月15日 14:00~16:00]

- 1 女性防災リーダー育成事業について
  - (1) 実施に至る経緯について
  - (2) 具体的内容について
  - (3) 事業による効果について
  - (4) 今後の課題について

### ○滋賀県草津市 [5月16日 13:00~15:00]

- 1 草津未来研究所について
  - (1) 設立に至る経緯について
  - (2) 具体的内容について
  - (3) 設立による効果について
  - (4) 今後の課題について

### ○大阪府吹田市 [5月17日 10:00~12:00]

- 1 男女共同参画センターについて
  - (1) 取り組み内容について
  - (2) 取り組みによる効果について
  - (3) 今後の課題について

## 平成 30 年度 総務消防常任委員会管外行政調査及び研修の総括

総務消防常任委員会委員長 相澤祐司

### 1. 大阪府茨木市 「女性防災リーダー育成事業について」

#### (1) 危機管理施策について

茨木市では、総務部の危機管理課で防災関連の事業を行っている。

「地域防災計画」「業務継続計画」「災害対策部別活動マニュアル」の3つを作成し危機管理に当たっている。

自主防災組織は小学校区単位で組織されている。指定避難所は小・中学校や公民館など75カ所で、全体受け入れ可能人数は、31,051人となっている。

#### (2) 女性防災リーダー育成の取り組みの理由

①避難所の運営に女性の視点が必要

②国が、女性を防災と復興の担い手と位置づけ「地域の防災を担う女性リーダーの要請」を計画に示した。

③茨木市の地域防災活動で、防災リーダーとして会議等への女性の参加が少なかった。

④日中に災害が起こると「災害弱者」と呼ばれる高齢者や乳幼児を抱えた保護者が残り、女性防災リーダーの存在が必要。

#### (3) 考察

避難所運営や被災者支援に女性の視点が欠かせないことは、東日本大震災の教訓にもなっている。自主防災会の女性役員の割合が高い茨木市の地道な努力が防災訓練に生かされていて学ぶ事が多かった。

### 2. 滋賀県草津市 「草津未来研究所について」

#### (1) 草津未来研究所の概要

##### ①設立の目的

地域の課題を解決するため、自治体の政策研究機能を高度化し、草津市の未来を見据えた想像力ある政策を提案することを通して、草津市の未来を切り開くことに寄与すること。

##### ②平成 30 年度事業内容

○シンクタンク機能 草津市の老年人口に関する調査研究

○データバンク機能 住民基本台帳に基づく草津市の将来推計人口と地域別将来推計人口の算定

○コンサルティング機能 地域防災の推進支援

○トレーニング機能 地域政策研究「未来塾」

○情報発信 その他

#### (2) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

草津市の複合化した都市課題に対して、民・産・公・学のそれぞれの立場で活動する個人や組織が、さまざまな場面で連携・協力・協働して解決に取り組む、コラボレーションを進めるための「プラットホーム」の役割を担う施設。

#### (3) 考察

草津市は「住みよさランキング」5年連続で近畿地区1位に選ばれている。市内に大学があり人口が増加している。南草津駅前には市立図書館が入る複合施設があり、駅舎とペDESTリアンデッキで結ばれているなど、本市の近い将来の姿を彷彿とさせる。草津市の課題に、文化・芸術の振興、まちのブランド力、市民主役のまちづくりが挙げられる。

これらの課題を解消することも含め、草津未来研究所を設立し、さまざまな分野で政策の提案をしている。

### 3. 大阪府吹田市 「男女共同参画センターについて」

#### (1) 吹田市立男女共同参画センターの目的

男女共同参画の推進に関する施策を実施し、並びに市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取り組みを支持するための拠点施設とする。

#### (2) 主な事業内容

- ①講座及び研修会の開催
- ②啓発事業
- ③市民活動及び交流支援
- ④情報の収集・図書、資料の提供
- ⑤女性のための相談事業 法律、悩み、電話、DV等
- ⑥調査研究事業

#### (3) 考察

講座によっては保育スタッフも配置されるため、子育て中の親も参加しやすく老若男女が生き生きと参加し、センターは連日賑わっている。

本市では、女性のための悩み相談・DV相談は行っていないので取り組む必要を感じた。また、デートDV予防啓発事業では、ユースリーダー養成講座を行い、大学生自身がデートDVに関する知識を深め、暴力に対する敏感な視点を持って社会に発信していける人材を育てていること。その養成講座を修了した大学生が自分たちでプログラムを考え、デートDVについて中学校で出前講座を実施していた。本市でも、DV相談も起きている中、吹田市の進んだ実践例を学び生かす必要性を強く感じた。

総務消防常任委員会視察研修報告書

視察日程：平成30年5月15日

14:00～15:30

## 女性防災リーダー育成事業について

## 1. はじめに

茨木市は、大阪府北部の北摂三島地域に位置する市である。大都市である大阪市と京都市の間にあり、大阪市のベッドタウンとして発展してきた。平成30年4月末の人口は281,896人で世帯数は125,125世帯となっている。

淀川北岸の大阪府北摂に位置しており、北は京都府亀岡市、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能郡豊能町に接している。市内をJR・阪急・大阪モノレールが通り、大阪市内でも北部のキタ（梅田界限）なら15分程度で移動できる。

今年、市制施行70周年で、「茨木には、次がある」をキーワードにパンフレットやノベルティなど多くのものが制作されていて、市全体で取り組んでいる様子が見えてきた。

## 2. 危機管理施策について

茨木市では、総務部の危機管理課で防災関連の事業を行っている。

「地域防災計画」「業務継続計画」「災害対策部別活動マニュアル」の3つを策定し危機管理にあたっている。その他にも啓発冊子(図1)を作成し、市民に配布している。



図1 啓発冊子

自主防災組織は小学校区単位で組織されていて、現在32地区中29地区で組織されているとのこと。地区単位で集中豪雨や土砂災害、地震を想定して防災訓練がなされている。

指定避難所は小・中学校や公民館など75箇所、全体受け入れ可能人数は31,051人となっている。

自主防災組織支援事業として、資機材の貸与や防災アドバイザーの派遣、そして防災士養成支援(6万円の補助)がある。現在は43人の防災士をゆくゆくは100人にしたいという目標があるとのこと。

## 3. 女性防災リーダー育成の取り組み

なぜ女性防災リーダーの育成をはじめたのか。その理由は以下の4つ。

- ・ 過去の災害では避難所の運営は男性中心だったので、女性の視点から避難所運営を考える必要があると感じたこと。
- ・ 国が、女性を防災と復興の担い手

と位置づけ「地域の防災を担う女性リーダーの養成」を計画に示したこと。

- ・茨木市の地域防災活動を見ると、活動している女性の数に対して、防災リーダーとして会議等へ参画する女性が少なかったこと。
- ・茨城市は、日中市外で働いている男性が多いので、日中に災害が起これると「災害弱者」と呼ばれる高齢者や乳幼児を抱えた保護者が残り、女性防災リーダーの存在が必要と考えたため。

事業の目的は、

- ・防災活動における男女共同参画の視点到配慮した取り組みを行うため、自主防災組織の運営を担い、方針決定過程へ参画できる女性リーダーを育成するため。

この目的を達成するため育成研修会を開催してきたとのこと。なかなか人が集まらなかったが、地域の自主防災組織の中から2人出してください、とお願いをし、人を集めた経緯があった。そして女性防災リーダーと共に防災講座を年に4回ほど開催し、男女問わず広く市民の方に参加していただいている。

活動の成果としては29団体中21団体より、342人が受講したとのこと。参加者が地域で研修会を実施したり、自主防災組織の方針決定へ参画する女性が増加した等の成果があった。さらに、女性防災リーダー同士が活発に意見を出し合いながら、実際に簡易トイレなどの組み立て体験の様子を

YouTubeで公開している。

タイトル

【茨木市】みんなにやさしい避難所づくり体験

<https://www.youtube.com/watch?v=qkPeRsT6lhk>

一方で若年層や子育て世代の参加が少なかったことから、多世代が参加できる工夫がこれから必要という課題もあるようだ。

#### 4. 委員からの質問(Q)と回答(A)

Q 婦人防火クラブ等の女性団体はあるのか。

A ない。

Q 防災士の資格を取得するために1年間に補助した人数は。

A 平成29年度は14人だった。

Q 小学校区ごとの自主防災会では、組織が大きすぎるのではないか。

A 学区内の単位組織が集まって自主防災会を組織している。

Q 自主防災会組織内の女性役員の割合は。

A 平成27年が23.1%、平成28年が21.1%、平成29年は22.7%である。

Q 市内全ての自主防災会が参加した防災訓練を運営した役員の男女比は。

A ほぼ半々である。

Q 庁内の他部署との連携は。

A こちらから出向いてお願いしている。

Q 茨木市が想定している災害は？

A 水害(内水)、土砂災害、地震(断



層型)。災害ではないが津波避難者の受け入れも想定している。

Q 防災行政無線の保守と訓練の回数は。

A 年1回の保守点検と年5回の訓練である。

Q 立命館大学とソフト面での連携はあるのか。

A 具体的なものは無い。イオンモールとは協定あり。

## 5. 考察

避難所運営や被災者支援に女性の視点が欠かせないことは、東日本大震災の教訓となっている。自主防災会の女性役員の高割合な茨木市では、災害発生に備えて自主防災組織の運営を担う女性リーダーの育成に努めて

おり、研修会やワークショップを開催してきた。こうした地道な努力が、防災訓練に生かされている。

本市でも、自主防災組織に女性役員を増やすよう呼びかけ、いざというとき女性が活躍できるよう指導すべきである。



図2 研修時の様子

(担当：小野泰弘、荒川洋平)

茨木市議会事務局 野村次長兼議事課長による挨拶



相澤委員長による挨拶



茨木市危機管理課 多田課長による説明



茨木市議会議場にて



# 総務消防常任委員会管外行政視察報告書

視察場所 滋賀県草津市役所

視察日時 平成30年5月16日(水) 13:00~15:00

視察項目 草津未来研究所について

報告者 相澤 祐司・吉田 良

## 1 草津市の概要

草津市は滋賀県の南東部に位置し、南北約13.2キロメートル、東西約10.9キロメートルと、やや南北に広がった地域からなる。草津は東海道と中山道の分岐・合流の地であり、現在もJR東海道本線、東海道新幹線、名神高速道路、国道1号線の主要幹線が市域を通っている。市の中心市街地は2つのJRの駅を核としている。草津駅、南草津駅はともに乗降客数が5万5千人を超え、県内JR駅の1位、2位を占めている。草津駅周辺では大型商業施設や高層住宅等の開発が進み、近年さらに新しい活力が生まれつつある。また南草津駅周辺では土地区画整理事業などに伴う住宅基盤整備が継続され、ファミリー世帯や学生等の居住ニーズを受け止めて、新たな出会いが生まれるまちとなっている。人口は、昭和29年の市制施行時には約32,000人であったが、昭和40年代から50年代にかけて著しく増加し、平成30年には約13万人となっている。

東南部丘陵地には、びわこ文化公園都市区域に文化・教育・福祉等の施設が集まっており、立命館大学びわこ・くさつキャンパスや県立長寿社会福祉センターなどがある。また湖岸域には、県立琵琶湖博物館、市立水生植物公園みずの森などの施設がある。湖南地域の中核的な都市として広域的視野に立ったまちづくりを行い、都市機能の集積によって働く・学ぶ・遊ぶ・憩うなどの市民生活の多様な広がりに応えられるまちとして発展し、市民活動や協働の取り組みもますます活発になってきている。

## 2 草津未来研究所の概要

### 設立の目的

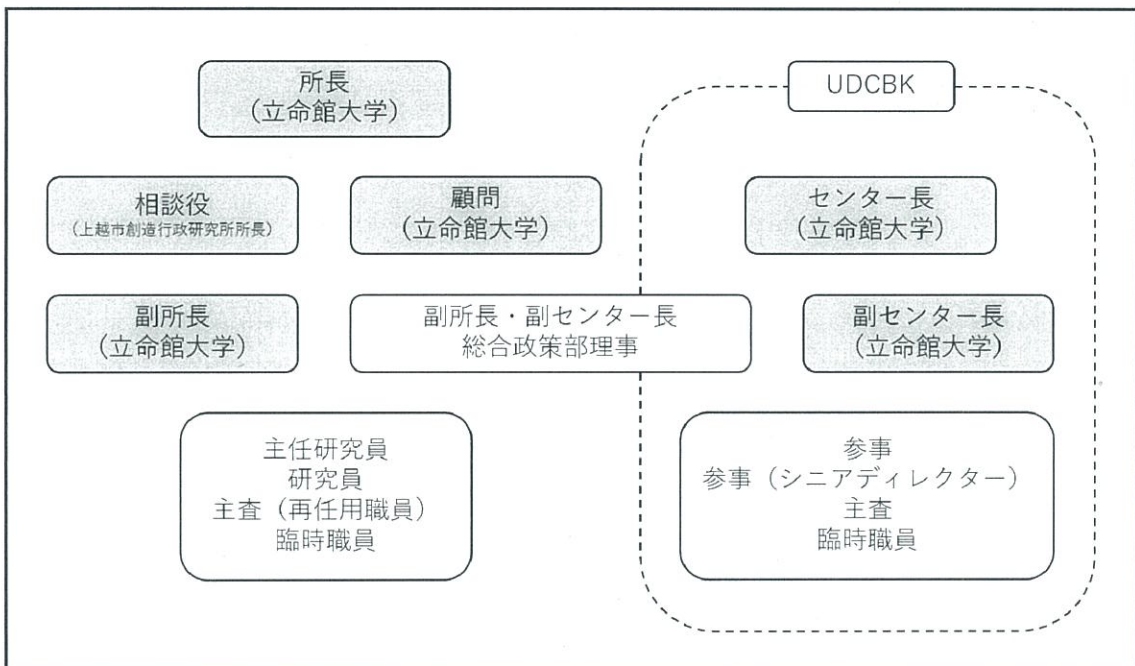
草津未来研究所の設立の目的は、地域の課題を解決するため、自治体の政策研究機能を高度化し、草津市の未来を見据えた創造力ある政策を提案することを通じて、草津市の未来を切り拓くことに寄与することである。自治体の研究所として地域の実践的な課

題解決に取り組むと同時に、中長期的・戦略的な視点を持ち、10年、20年先の地域と自治体の役割を見通した政策研究と提言が求められている。この目的を果たすために、市の政策課題を分析し、課題解決を目指すような政策を生み出す「調査研究活動」と、市の未来を担うため、調査研究活動を通して人材育成を図る「人材育成活動」の、2つの柱で活動を行っている。

### 設立までの経緯

- 1994年 立命館大学びわこ・くさつキャンパス開学
- 1999年～ 第4次草津市総合計画  
(仮称)草津まちづくり研究所設置
- 2003年 立命館大学と包括協定締結
- 2004年 第1次行政システム改革提言  
市政研究所(仮称)まちづくり研究所設置
- 2008年 橋川市長就任  
※立命館大内部に置かれた市の出張所に所長として勤務した経歴
- 2009年 準備室設置
- 2010年 草津未来研究所設置

### 組織



### 3 平成29年度事業内容

- シンクタンク機能

- 【調査研究】

- 草津市における雇用の概観に関する調査研究

- 基幹統計調査に基づく課題抽出

- 市民調査に基づく「住みやすさ」に関する調査研究

- 【都市政策懇話会】

- 中心市街地活性化に向けての今後の取り組みについて

- 「健幸都市基本計画」に基づく「しごとの健幸づくり」の取り組みについて

- データバンク機能

- 各課が所有するデータのリスト更新

- 政策情報の整備

- 地域別将来推計人口の算定

- コンサルティング機能

- 「草津市にマッチした新しい防災活動のあり方検討報告書」の作成支援

- トレーニング機能（地域政策研究「未来塾」）

- 草津川跡地公園を活かした草津駅周辺のまちづくりについて

- 草津の未来－今考えておかなければならないこと

- 人口減少と家族－世帯と系に焦点を当てて

- 仕事と家族の変化－有償労働と無償労働の改革の方向性

- プラットフォーム機能

- 「アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）」の移設

- 立命館大学、滋賀大学、成安造形大学、京都橘大学、滋賀県立大学、滋賀医科大学との連携推進

- 草津市と龍谷大学との連携協力に関する協定を締結

### 4 平成30年度事業計画

- シンクタンク機能

- 【調査研究（予定）】

- 地域の特徴を活かした地域活性化に関する調査研究

- 草津市の老年人口に関する調査研究

- データバンク機能
  - 政策情報の整備
  - 住民基本台帳に基づく草津市の将来推計人口と地域別将来推計人口の算定
- コンサルティング機能
  - 地域防災の推進支援
- トレーニング機能
  - 地域政策研究「未来塾」
- 情報発信 その他
  - ニュースレター、未来通信の発行
  - 視察の受け入れ

## 5 アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK)

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (Urban Design Center Biwako Kusatsu : 略称 UDCBK) は、草津市の複合化した都市課題に対して、民・産・公・学のそれぞれの立場で活動する個人や組織が、さまざまな場面で連携・協力・協働して解決に取り組む、コラボレーションを進めるための「プラットフォーム」の役割を担う施設である。

開室日と時間は、火・木・土曜日が10:00から18:45まで、水・金曜日が11:30から20:15までとなっている。

### アーバンデザインとは

都市の「今だけでなく過去も、そして活動も」「市街地だけでなく、周りも」「いろいろな未来も」デザインすることを意味する。

平面的で静止画的な都市計画 (Plan) から、立体的で時間と空間を意識した動画的なデザイン (Design) へ変化が求められる。

### UDCBK の目標

いろいろな未来のまちのイメージ (選択肢) の展示室としての機能。

- ・公式、非公式を問わず、アーバンデザインに必要な情報が入手できる
- ・その事柄に関心のある市民や専門家を集め、アーバンデザインに関する意見交換の場をつくることできる
- ・地域の人たちの具体的な活動を知ることができる
- ・新たな政策や開発を行う際のアーバンデザインについて、科学的知識をふまえることができ、その結果として誰もが納得する草津にふさわしいまちづくりを促進することができる

## UDCBKの事業

- ・アーバンデザインスクール
- ・未来創造セミナー
- ・UDCBK 社会実験事前調査事業
- ・やさしいにほんごサロン

## 今年度事業のテーマ

- ・健幸都市
- ・各種オープンデータの利活用

## 6 考察

草津市は「住みよさランキング」において5年連続で近畿地区1位に選ばれていること、市内に大学が所在していること、人口が増加していることなど、本市とよく似た状況にある。ちなみに南草津駅前には市立図書館が入る複合施設があり、駅舎とペDESTリアンデッキで結ばれているなど、本市の近い将来の姿を彷彿とさせる景色が広がっている。このように魅力的なまちである草津市にも課題はあり、文化・芸術の振興、まちのブランド力、そして市民主役のまちづくりが主なものとして挙げられる。これらの課題を解消することも含め、草津市は内部シンクタンクとして草津未来研究所を設立し、さまざまな分野で政策の提案を行っている。

その提案は多岐にわたり、それぞれが広い視野を持つものであるため、部署をまたいだ形で行われることも多く、事業を進めている担当課に対して取り組みを阻害するのではないかとの懸念も指摘されているという。そのこともあって配置される職員の数は縮小されてきており、行政における縦と横のバランスについては、今後も議論が続いていくことになるだろう。

ひるがえって本市を見れば、市内に大学・高等専門学校が立地していることや仙台市に隣接しているという地の利を生かし切れていない。まちづくりに専門家の知見を生かしていくためには大学など研究機関とのさらなる連携は不可欠である。また、市民活動の拠点である市民活動支援センターの運用についても、利用者ばかりではなく一度も利用したことのない市民の声も拾い集め、利便性を向上させる取り組みにつながることを期待したい。

草津市議会事務局 木村次長兼議事庶務課長による挨拶



相澤委員長による挨拶



草津未来研究所 江南主任研究員による説明



アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK)

中西主査による説明



アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK) にて





## 【吹田市立男女共同参画センターについて】

総務消防常任委員会

大沼 宗彦

菅原 和子

【視察先】大阪府 吹田市

【視察日時】平成30年5月17日（木）10:00～12:00

【人口】370,981人

【面積】36.11km<sup>2</sup>

【地勢】北部は摂津山系を背景として、標高20mから116mのなだらかな千里丘陵、南部は安威川、神崎川や淀川をつくる標高10mほどの低地から形成されている。吹田市は、日本の近畿地方中心部、大阪府北部の北摂三島地方に位置する。施行時特例市。1960年代千里丘陵に千里ニュータウンが建設されてベッドタウンになった。

安威川・神崎川は、吹田市の産業を発展させ、地域の文化を育てている。千里丘陵の緑とため池は市街化の過程の中で緑地・公園等として保全され、今日も市民の憩いの場として親しまれている。柴金山公園や片山公園、垂水神社の森などは丘陵地の緑を残す大きな核となっている。

JR東海道本線、北大阪急行電鉄、阪急千里線などの鉄道、名神高速道路、中国自動車道といった主要幹線道路のほか、大阪高槻京都線や新御堂筋、大阪中央環状線等の重要な幹線道路が通り、交通の要衝となっている。

このような自然の軸や交通の軸が吹田市の景観の骨格となり、活気をもたらしている。

### 【吹田市立男女共同参画センターの概要】

#### 1、目的

男女共同参画の推進に関する施策を実施し、並びに市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取り組みを支持するための拠点施設とする。

（吹田市立男女共同参画センター条例）

#### 2、所在地

大阪市吹田市出口町2-1

### 3、建物の概要

構造 鉄筋コンクリート造り 地下1階・地上3階建  
延床面積 2,847.67㎡

### 4、開館時間 午前9時～午後9時（希望者は10時まで延長）

### 5、開館年月日 昭和62年6月1日

平成5年10月1日に吹田市立婦人会館から吹田市立女性センターへ名称変更し、愛称をデュオとし、平成14年11月1日から吹田市立男女共同参画センターと名称変更する。

#### 【吹田市立男女共同参画センター事業内容】

##### 1、講座及び研修会の開催

###### ①意識啓発講座

男女の人権が尊重され、性別による固定的役割分担に基づく社会制度や慣行が解消するための啓発講座。

###### ②社会参加促進支援講座

再就職、キャリアアップなど、男女があらゆる分野で性別にかかわらず、個性と能力を發揮できるための支援講座。

###### ③男女共同参画講演会

男女共同参画社会について理解を深め、その実現に向けて意識の向上を図るための講演会。

###### ④参画スタッフ、保育スタッフ養成講座

男女共同参画社会の実現に向けて、市民と協力してさまざまな活動を進めるために参画スタッフ（男女共同参画推進員）制度を実施。

<登録人員 189人（平成29年3月現在）>

- ・男女共同参画地域フォーラム企画運営 ⇒6人
- ・男女共同参画センターだより「ソフィア」広報スタッフ ⇒5人
- ・女と男の生き生きライフ編集スタート ⇒3人
- ・情報ライブラリー活動 ⇒46人
- ・保育スタッフ活動 ⇒95人

- ・シニアリーダー活動 ⇒ 28人
- ・ユースリーダー ⇒ 6人

#### ⑤デートDV予防啓発講座

デートDVをテーマに、市内の中学校へ男女共同参画推進員と協働して出前講座を行う。また、高校・大学へも出前セミナーを実施。

※ 総合的なDV防止対策事業の一環として、若い世代における「交際相手からの暴力」を未然に防止することを目的とし、より効果的なデートDV予防啓発プログラムを届けるため、中高生と年齢の近い大学生をユースリーダーとして養成している。ユースリーダー養成講座を終了した大学生が、デートDV啓発専門のNPOと自分達でプロジェクト啓発を考え、中学校で出前講座を行う。

#### ⑥その他

Wリボンプロジェクト啓発講座、DVフォロー講座、事業者対象研修会、市民自主企画講座、及び研修会等の開催。

※ Wリボンとは、女性に対するあらゆる暴力根絶のシンボルのパープルリボン・子どもの虐待防止のシンボルのオレンジリボンを組み合わせて、吹田市が独自に考案したマーク。

## 2、啓発事業

### ①男女共同参画センターだより「ソフィア」の発行とフェイスブックページの運営

- ・発行回数 年3回 (VOL87・88・89 平成28年度発行)
- ・配布部数 6500部
- ・様式 A4版・8ページ・多色刷り
- ・配布先 市内公共施設、近隣女性関連施設、郵便局、金融機関、理美容店  
阪急、JR、モノレール、北大阪急行などの駅、及び市内事業所

#### <特集記事内容>

- VOL87 「避難所～日常が遠くなる時～」  
避難所運営を取り仕切るリーダーに女性が少ないことが課題であり、日頃から防災訓練や地域活動へ積極的に参加することの大切さを伝えている。
- VOL88 「男性の生き方～これからの時代をどう生きるか～」  
男性はこうあるべきに縛られた生きづらさを感じている男性

に向けて、その意識に気づいてもらうきっかけとなるような内容。また、性別役割分担意識や性別による固定観念について考える内容。

VOL 89 「これって、ワンオペ育児？～一人で育児からみんなで育児～」  
ワンオペ育児の実態について紹介し、育児における悩みを一人で抱え込まないヒントを掲載。

### 3、市民活動及び交流支援

#### ①センター・グループの会への支援

市民グループや事業所が自主的に企画する男女共同参画に関する研究室及び勉強会、市民を対象に行う講座及びシンポジウム等の取り組みを支援する。支援することにより、男女共同参画について理解を深めるとともに、活動する人材を育成する。

<以下のいずれにも該当するグループ>

- ・市内に所在し、活動する市民グループであること。
- ・グループの会員が18歳以上かつ5人以上であること。
- ・会員の7割以上が市内に在住、また通勤、通学していること。事業にあつては、営利、非営利を問わず、市内に事務所を置く事業所であること。ただし、政治団体、宗教団体及び吹田市から学習活動に関する助成金または委託を受けているグループは除く。

#### ②交流支援

男女共同参画センターを利用している団体、グループ、サークル等の交流や親睦、学習の支援を行っている。また、グループ間の情報交換を目的としている「男女共同参画センター・グループの会」と共催講演会等を実施している。

(登録団体数13団体)

#### ③市民活動への支援

男女共同参画の推進に関するグループへ、懇話室や印刷室の利用の支援、またロッカーなどの利用支援。(登録団体数⇒40団体)

### 4、情報の収集・提供事業

①男女共同参画センターの情報ライブラリーでは、さまざまな図書や資料など、男女共同参画に関する情報の収集と提供を行っている。

- ・事業開始 昭和62年10月14日

- ・開室時間 午前9時30分～午後5時15分
- ・開室日数 337日
- ・収集資料
 

図書	19,897冊
逐次刊行物	135種
その他	行政資料 パンフレット

<利用状況>平成29年3月31日現在

- (1) 貸出登録者数 3,949人
- (2) 図書貸出冊数 4,611冊
- (3) 延べ利用数 5,154人
- (4) 他館返却数 1,710冊

## 5、女性のための相談事業

### ①女性のための法律相談

毎月 第2土曜日 午後1時30分～午後5時  
 弁護士（女性）による相談（祝日は日程変更）

<実施状況>

開設日数12日 利用件数→56件

### ②女性のための悩みの相談

毎月 第1・第4火曜日 午前10時～午後2時45分  
 毎月 第2・第3土曜日 午前10時～午後2時45分  
 カウンセリングによる相談（祝日は日程変更）

<実施状況>

開設日数48日 利用件数→121件

### ③女性のための電話相談（専用電話での相談）

毎週水曜日 午前10時～午後5時（祝日を除く）  
 毎週月・金曜日 午前10時～午後4時

<実施状況>

開設日数129日 利用件数→243件

### ④女性のためのDV相談

毎月 第2・第4木曜日 午前10時～正午  
 毎月 第1・第3木曜日 午後2時～午後4時（一時保育可）  
 カウンセリングによるDV相談（祝日・第5除く）

<実施状況>

開設日数 44日      利用件数→94件

6、調査研究事業

①調査研究事業

男女共同参画の推進にかかわる課題についての調査・研究及び報告書作成。

【 考 察 】

吹田市では、男女共同参画推進条例が平成14年に制定されおり、センターでは市民と市内の事業者向けに男女共同参画に関するさまざまな講座や研修会が開催されている。

講座によっては保育スタッフも配置されるため、子育て中の親も参加しやすく老若男女が生き生きと参加しにぎわっている。

本市では、生涯学習の一貫として各公民館で特色ある講座を開催しているが、このセンターでは、女性のための電話相談・悩み相談・DV相談・法律相談を行っており、相談件数の総数は、年間514件（平成28年度）である。本市では、女性のための悩み相談・DV相談は行っていないので取り組む必要性を感じました。

デートDV予防啓発事業では、ユースリーダー養成講座を行い、大学生自身がデートDVに関する知識を深め、暴力に対する敏感な視点を持って社会に発信していける人材を育てているとのことでした。その養成講座を終了した大学生が自分達でプログラムを考え、デートDVについて中学校で出前講座を行うというもの。必要な取り組みと考える。本市には、男女共同参画センターはありませんが、今回学んだことを大いに参考にさせて頂きたい。

吹田市議会 藤木栄亮議長による挨拶



相澤委員長による挨拶



吹田市男女共同市民参画推進室 杉室長による説明



吹田市役所にて

